

令和2年第1回燕市議会定例会
一般質問日程表

質 問 日		質 問 者			質 問 方 式	
					一括質問	一問一答
3月2日(月)	午後	1	柴山 唯 議員		○	
		2	樋浦 恵美 議員		○	
		3	大原 伊一 議員		○	
5日(木)	午前	4	山崎 雅男 議員		○	
		5	柳川 隆 議員		○	
	午後	6	田澤 信行 議員		○	
		7	大岩 勉 議員		○	
		8	土田 昇 議員		○	
6日(金)	午前	9	齋藤 信行 議員	○		
		10	タナカ・キン 議員		○	
	午後	11	埴 豊 議員		○	
		12	小林 由明 議員		○	
		13	岡山 秀義 議員		○	
9日(月)	午前	14	宮路 敏裕 議員		○	
		15	長井由喜雄 議員		○	

令和2年第1回燕市議会定例会「一般質問表」

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
1	柴山 唯 (一問一答方式)	1. 女性が働きながら子育てしやすいまちづくりについて	(1) ハッピーベビークラブ(妊婦・両親学級)について	①燕市で開催されているハッピーベビークラブ(妊婦・両親学級)の出生数に対して参加者の割合を伺う。また、内容は現代の妊婦を取り巻く環境に即しているのか。 ②昨今問題になっている幼児虐待や幼児死亡事件、産後うつなど、出産後の問題を防止する上で、妊婦・両親学級は有効だと考えられる。より一層の参加促進をするべきと考えるがいかがか。
		2. 燕市の公共施設の今後のビジョンについて	(1) 燕市建物系公共施設保有量適正化計画について	①燕市では将来の人口減少から歳入が減少し、なおかつ福祉などでは経費は増え続けるだろうという推測のもと、平成31年3月に「燕市建物系公共施設保有量適正化計画」を制定した。その中で「本計画の実効性を高めるため、『基本方針』にもあるとおりPDCAサイクル等の進行管理を行い、必要に応じて内容の見直しを行う」と記載があるが、必要に応じてとはどのような場合か。ある程度の期間を設定するなど、計画の見直しをしていくべきと考えるがいかがか。
			(2) 公共施設の跡地の利活用のビジョンについて	①令和2年3月に燕北幼稚園の閉園が決まっているが、閉園後の園の利活用の方針や個別計画はできているのか。 ②今後多くの公共施設が統廃合の対象となり、利用されなくなる建物が増えるが、そこを地域の空き物件の一つにすることなく、市としてその地域がさらに発展していくための足掛かりとして利活用するなど、ビジョンはあるのか市の考えを問う。
		2	樋浦 恵美 (一問一答方式)	1. 子育て支援について
(2) 産後ケア事業について	①出産後の母と子への心身のケアや、育児相談などを行う産後ケア事業について、事業の実施を市区町村の努力義務とする改正母子保健法が、昨年11月29日に成立しました。来年12月5日までに施行されます。改正法では、対象者を出産後1年以内の母と子としています。燕市では、対象者を出産後3カ月未満の母と子としていますが、今後はどのように対応していられるのか伺います。 ②実施方法については、宿泊型・通所型・居宅訪問型の3類型を示しています。居宅訪問型について、市の考えを伺います。			

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
2	樋浦 恵美 (一問一答方式)	2. 女性視点の防災対策について	(1) 女性視点の防災対策について	<p>① 防災計画の策定などを行う燕市防災会議において、現在の女性委員の人数について伺います。</p> <p>② 女性委員の登用について、人数を増やす考えはあるのか伺います。</p> <p>③ 女性や子育て家庭の視点を取り入れた、きめ細かい備えをすることが大切であると考えます。女性の視点を防災対策に活かした、防災ブックの作成を提案したいが考えを伺います。</p>
3	大原 伊一 (一問一答方式)	1. 行財政運営の改革について	(1) 補助制度の見直しや、民間でできることは民間へ	<p>① 少子高齢化、労働人口の減少など、時代の変遷が加速的に早まってきていることに危機感を抱かざるを得ない。 2006(H18)年3月20日に合併して4年後の鈴木市政となつてから、「燕はひとつ」を合い言葉に多くの事業の見直しや、統一された制度構築を行つてきて、市民の中には一定の統一感が醸成できてきたと評価したい。 さて、本市は合併15年を目前に控え、新たなステージに進む必要があると思つている。なぜなら、少子高齢化や人口減少に伴う労働人口の減少で、税収の先細りが確実となつてきている時代背景を捉え、民間でできることは民間へ、を加速していくことも必要であるし、多くの補助制度の見直しや公共施設の統廃合の前倒し実施など、多岐にわたる再検討が急務と考えるが、市長の見解を伺いたい。</p> <p>② ビジョンよしだの改修に公設民営の手法を取り入れたらどうか。また、てまりの湯の民営化も検討すべきでないかと思うがどうか。さらに、幼保民営化の早期実施を検討すべきでないのか。 補助金などの見直しも削減方向を示し、徐々に減額していく見直しが必要でないのか。</p> <p>③ 市の活力維持のためにも高齢者の社会参加を今以上に促進し、高齢者が元気に仕事をしたり、活動できる環境を整えていくことで、産業のまちとしての労働人口の確保や、市民活動の活力を維持していくことが不可欠になると考えるがどうか。</p>
		2. 入札妨害について	(1) 入札情報管理について	<p>① 今議会直前の2月15日に非常に残念であるが、燕・弥彦総合事務組合職員と(株)カトー社員の2名が公契約関係競売入札妨害容疑で逮捕された。2月16日の新聞報道によると燕・弥彦総合事務組合職員は、「対象となつた2件の入札工事については、担当外で価格情報を知りうる立場になかつた」としている。これは、入札に関して職員間での情報管理の在り方について問題を提起されたと言わざるを得ない。 燕・弥彦総合事務組合職員だけにとどまらず、燕市職員全体の問題と捉え、各種情報の管理体制の見直し、再発防止策について伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
3	大原 伊一 (一問一答方式)	3. 北方領土問題を理解する学習活動	(1) 日本固有の領土である北方領土に対する学習活動の重要性	<p>①本市は、平和教育の一環として毎年広島へ中学生を派遣している。第2次世界大戦による唯一の被爆国として世界平和の重要性を学び、戦争の悲惨さを後世に伝える学習活動として重要な位置づけとして行っている。</p> <p>しかし、一方で我が国は、固有の領土である竹島や北方領土の領土問題を抱えている。北方領土については、広島と同じ第2次世界大戦での出来事であり戦争の理不尽さを知る良い機会と思われる。</p> <p>毎年、広島派遣も良いと思われるが、次代を担う子ども達に領土問題に対する歴史的事実や問題意識を学習する機会も重要と思われる。隔年で広島、根室と派遣体制を作ってはいかがか。</p>
4	山崎 雅男 (一問一答方式)	1. 新型コロナウイルス肺炎の感染拡大に伴う市の影響について	(1) 新型コロナウイルス肺炎による感染拡大に伴う産業界への影響について	<p>①中国、武漢市発の新型コロナウイルスによる肺炎が中国で依然猛威を振るい、感染拡大が日本・韓国・米国等々と世界各地に広がり、世界中を混乱に陥れている。</p> <p>今や中国は国内総生産(GDP)世界2位の経済大国。日本や世界各国の対中国依存度は高く、中国経済の停滞が世界経済に与える影響は大きく、世界工場とも呼ばれている中国。燕市はものづくり、産業のまちであり、国内外を相手に取り組み、特に中国との関りが大きい。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大に世界経済の停滞や、日本経済への影響を危ぶむ中において、燕市産業界への影響はどの程度なのか。終息時期がはっきりとしないが、燕市としての認識と今後の方向性について伺う。</p>
		2. 農業の担い手をめぐる育成、確保について	(1) 自給力を高め持続可能な燕市農業の展開について	<p>①本市の農業就業人口(自営農業従事者と兼業において多く農業従事している農業者)の推移と平均年齢はどうなのか。また、離農農家状況について伺う。</p> <p>②全国的に農業就業人口が減少の中において、農業法人は増加傾向とも言われている。農業法人には、農事組合、会社、生産法人等があるが、本市にはそれぞれの程度存在しているのか、法人の特徴について伺う。</p> <p>③新規就農者について「自家自営農業者」と、農業法人等に雇用される「新規雇用就業者」、また、土地、資金を独自に調達し農業参入する「新規農業参入者」の形態があるが、本市の新規就農者の推移と状況、営農形態はどうなのか伺う。</p> <p>④本市の新規就農者支援、農業生産組織支援の在り方、検証と課題について伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
4	山崎 雅男 (一問一答方式)	2. 農業の担い手をめぐる育成、確保について	(2) 本市の農地を維持管理するための政策と振興策について	① 高齢化した農家は、農地を維持していくことは厳しい状況かと思うが、農業用排水路等、地域資源維持管理の現状調査、分析はなされているのか伺う。 ② 高齢化農業者のリタイア等に伴い、以前耕作していた土地で過去1年以上、現在、将来に向け、再び作付けを考えない耕作放棄地、通常の農作業では作物栽培が不可能な荒廃農地、再生利用が可能な遊休農地の本市の実態はどうか伺う。
			(3) 農地中間管理事業の取り組み状況について	① 農地中間管理機構、いわゆる農地バンクは平成25年12月5日に設置。農業の構造改革を推進するため、農地利用への集積、集約化を行い、遊休農地解消の改善、青年等の就農促進政策の強化、農業法人に対する投資の円滑化等を講じるためのシステム。 農地といえども国土である。水害時には田んぼダムとして減災効果を発揮する。その国土を守って次世代、後世に引き継いでいくことは、ごく当然のことと思うし、生産するためのスペースとなる大地である農地は必要不可欠であるが、農地集積バンクが目指すもの、目指す農用地の姿はいかなるものか所見を伺う。また、本市の農地中間管理事業の実績について伺う。
		3. 重症心身障がい、医療的ケア、障がい児・者等の抱える課題と現状認識について	(1) 重症心身障がい、医療的ケア、障がい児・者等の抱える家族の現状について	① 乳幼児、学齢期、成人期に至るまでのライフステージに応じた切れ目のない支援体制内容と、取り組みの方向性について伺う。 ② 重症心身障がい児、及び、医療的ケア児等の特別な支援が必要な障がいのある児童に対する具体的な支援策の現状と課題について伺う。 ③ 市内の障がい児で、県立吉田特別支援学校、県立月ヶ岡特別支援学校に通っている小中学部、高等部の人数と、卒業後の通所施設利用等の現状について伺う。 ④ 後天性による障がい児・者もいるが、近年、新生児医療の発達により、疾病を持つ子どもが助かることが多くなり、病院以外の場所での医療的ケアを必要とする子どもが増加傾向と言われている。医療的ケア児やその家族が安心して生活していくために知っていただくことが必要かと思うが、理解を促すためにも普及、啓発について伺う。
5	柳川 隆 (一問一答方式)	1. 職員の処分について	(1) 職員の処分のこと	① 処分日が令和元年12月26日、12月定例会の最終日が12月20日。処分日を一週間繰り上げて、定例会最終日の最後に議員懇談会等で発表するべきだったと思うが、そうしなかったのはなぜか伺う。 ② 当局から頂いた「職員の処分について」の文書の「4. 再発防止策について」の中で、「所属内で特定の場所に保管することとし」とあり、「事務処理に漏れが生じないように共有化を図っていく」と記されているが、共有化とは具体的にどういうことをするのか伺う。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
5	柳川 隆 (一問一答方式)	2. 市民生活 部 行政 について	(1) 公共交通のこと	<p>① ドアツードア、きららん号の1日平均利用者数は、2019年度12月末時点で163.2人と過去7年間で最高だが、その理由を伺う。</p> <p>② 隣の新潟市西蒲区内の公共交通で、「バスの運転手が不足し、旧吉田の観光バス会社より運転手を回してもらっている」という報道があったが、本市の現状について伺う。</p> <p>③ 予約制であり早い者順ということから、朝に申込者が立て込み、予約できない人が出た場合をどうするのか伺う。</p> <p>④ 今年度予算で、循環バス運行費負担金(スワロー号)が925万9千円、公共交通会議負担金(やひこ号・きららん号)3,989万3千円。それぞれの県・国の補助額を伺う。</p> <p>⑤ バスの運転手は次の停車する場所をマイクや録音テープを使わず地声で告げているが、1日ではかなりの負担になると思われるが、どう考えているのか伺う。</p>
		3. 産業振興 部 行政 について	(1) 燕市産業振興協議会のこと	<p>① 平成30年5月24日開催の第1回協議会。平成30年10月25日開催の第2回協議会。平成31年3月22日開催の第3回協議会。</p> <p>第1回には当面の取り組み事項として、第2回には目的として、企業の人手不足対策の一環で「求職者と企業との一貫したマッチング支援」とあるが、具体的な中身と成果について伺う。</p> <p>② 第2回の資料10ページの「4. 産業施策の方向性」で(企業が目標達成するための)行政の主な「支援ツール」の記載は、平凡、手詰まりという印象を受けたが、当局の認識を伺う。</p> <p>③ 第3回の資料7ページの「3. 検討体制(PDCA)」で②の「基づき」と③の「すり合わせ」は同じことを二度言っているように思われるが、当局の見解を伺う。</p> <p>④ 昨秋、「メイド・イン・ツバメ」の著者の講演を聴く機会があったが、講演の中で「燕は更なる変遷を重ねるともっと良くなる。それができる数少ない地域である」と話されておられたが、本協議会4回の会議の資料の中にどこにも変遷の文字が見当たらないが、どういうわけか伺う。</p>
6	田澤 信行 (一問一答方式)	1. 第2次燕市総合計画 について	(1) 中間評価について	<p>① 第2次燕市総合計画は平成28年に策定し、令和元年度が中間目標値を定めていることから実績を検証した訳ですが、その結果、一番の問題は人口減少が推計値を大幅に下回ったことだと思うが、その対策として目玉となる施策は何かを伺う。</p> <p>② ものづくり産業の活性化において、製造品出荷額等が中間目標値の98.5%、金属製品製造品出荷額は105%と目標値を達成しており、評価としては○、◎と高評価となっているが、そもそも目標値が低すぎる設定だったのではないかを伺う。</p> <p>③ 製造品出荷額等や金属製品製造品出荷額のデータ集計企業でも良いが、燕市内にある企業の従業員数を捉えているのか。捉えていれば前年比較で増減がどのように推移しているか伺う。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
6	田澤 信行 (一問一答方式)	1. 第2次燕市総合計画について	(2) 移住、定住の促進について	<p>①総合計画中間評価報告書では、移住相談者に係る本市定住者数の中間目標値が10人で令和元年度実績が30人と大きな達成となっている。その要因として「家賃補助制度が功を奏して移住者のニーズとマッチした」と評価しているが、本当にそれだけの理由で増えたのか、他の要因は無いのか伺う。また、平成30年度も28人という実績だが、併せて要因を伺う。</p> <p>②総合計画の見直し版(素案)では、移住、定住の促進として「移住希望者に対し、移住先の候補地として選定してもらうための広報を検討、実施する」との文言が追加されたただけだが、具体的にどのような広報活動を検討しているのか伺う。</p> <p>③移住者促進の観点から、昨年3月議会で企業誘致を推進するように一般質問で提言し、今後、検討したい旨の回答をいただいたが、今回の見直しではそのような発想がなかったのか伺う。</p>
		2. 地域の見守り隊について	(1) 見守り隊の活動状況について	<p>①一昨年の新潟市内の女子児童殺害事件に端を発し、児童の登下校時の安全を図るために各地域で見守り隊を結成し、活動していると思うが、その活動状況について伺う。</p> <p>②活動の地域間格差を認識していると思うが、どのように捉え今後どうすべきと考えているかを伺う。</p> <p>③見守り隊はボランティア活動であり、地域住民のご好意によって成り立っているが、この活動に対して、燕市として支援することができないか伺う。</p>
7	大岩 勉 (一問一答方式)	1. 燕市の人口減少問題対策について	(1) 燕市の人口減少問題対策について	<p>①新潟県内の人口減少は深刻な状態です。転出超過数は8,000人を超え、全国ワーストです。燕市の過去3年間の人口減少の現状を伺う。</p> <p>②東京一極集中の是正を国も地方創生を掲げ目指しているが、燕市としても危機感を持って取り組むべきと思うが市長の考えを伺う。</p> <p>③都内の人材獲得競争から保育士が新潟を離れ、都内の保育士となり、ますます県内の人口減少の要因の一つではないでしょうか。燕市として現状を鑑み保育士の待遇を充実させる対策を伺う。</p>
		2. 学校教育問題について	(1) 学習方法「アクティブ・ラーニング(AL)」について	<p>①主体性、対話的で深い学びを目指す「アクティブ・ラーニング(AL)」授業が、2020年度から小中高校で順次実施されるとのことですが、燕市教育委員会としてはどのように考えているのか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
7	大岩勉 (一問一答方式)	2. 学校教育問題について	(2) 教員の働き方改革について	① 文部科学省の16年度教員勤務実態調査では、公立小教諭の3割、公立中教諭の6割が「過労死ライン」の月80時間を超えたと発表されているが、燕市として現状を伺う。 ② 教員の勤務時間を年単位で調整する変形労働時間制の導入運用は自治体の判断でできると思われるが、学校現場などと検討されているのか伺う。
			(3) 小中学校教員の実態について	① 神戸市などで教員のいじめ問題が報道されています。本県でも教員の不祥事が相次いでいますが、燕市内の小中学校の教育界では職責を忘れた行動などはないか現状を伺う。
		3. 東京五輪聖火リレーについて	(1) 東京五輪聖火リレーについて	① 燕市内の出発地点から引継ぎまでのルートコースと、燕市を走るランナー(県推薦枠・企業枠などを含む)の人数を伺います。 ② 多くの市民からルートコースで応援してもらうためのイベントや広報活動はどのようにされるのか、リハーサルの準備状況を伺います。
		4. 高齢者福祉支援について	(1) 高齢者福祉支援について	① 高齢化社会が進んでおり、市内の特別養護老人ホームなどの福祉施設への入院希望待機者は現在どのくらいおられるのか、健康福祉部長に伺います。 ② 介護施設での仕事は大変と思いますが、職員や利用する家族からの苦情や、意見要望などがありましたらお聞かせください。また、介護施設に勤務する介護福祉士不足の現状も健康福祉部長に伺います。
8	土田昇 (一問一答方式)	1. 南部開発について	(1) 粟生津地区の開発について	① 平成6年の10月にビジョンよしだが完成し、その後に粟生津地区の南部開発が予定されていたが、JR越後線と国道116号の間の農地から住宅地に変更する方向で地元の説明しようとしている段階でその話がなくなり、現在に至っているが、少子化の問題等々も含めて、今後そのことについて検討しても良いと思うが市長の見解について伺う。(民間活力の導入もお願いしたら) ② JR越後線を分水駅まで増便することについて、JRにお願いに行ってもよいと思うが市長の見解について伺う。
		2. 県道燕・分水線の拡張工事と今後の見通しについて	(1) 早期実現について求める	① 以前から問題となっている大通川と西大通川の拡張工事が現在どのような状況か伺う。 ② 国道116号吉田バイパスの法線が都市計画決定されたと思うが、今後の見通しも含めて伺う。
		3. 柏崎・刈羽原発の安定ヨウ素剤の配布計画について	(1) 30キロ圏内の市の状況について	① 新聞報道によれば、安定ヨウ素剤の配布や服用で、30キロ圏内での事前配布はされるのか、手順はどうなるのか、その必要について、どのような認識か伺う。
		4. 農業問題について	(1) 用水、排水路の管理等々について	① 国、県の指導で大規模な農業経営を推し進めてきた結果、個々の農家でも、用水や排水の管理が悪くなって、多くの農家の方々に大変な迷惑をかけている現状がありますが、農政課や農業委員会等々で強く指導すべきと思うが、過去経過も踏まえて答弁を求めます。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
8	土田昇 (一問一答方式)	5. 県立吉田病院の現地改築は早期に実現へ	(1) 早期改築を求める	<p>①先の12月議会で、私の県立吉田病院に関係する一般質問で、市長の答弁は「県立吉田病院は県央圏域において高度急性期医療を提供する県央基幹病院と、その後方支援病院としての県立吉田病院の役割が重要」と答弁しているし、さらに、「引き続き地域住民の命を守る視点で、県立吉田病院の現地改築を強く訴えていく」と答弁しているが、現在も今後もその気持ちで対応していくと思うが、市長の見解について伺う。</p> <p>②燕市医師会との関係を大切にしてきたと思うが、今後も今以上に大切にしていけるべきかと考えるが答弁を求めます。</p>
9	齋藤信行 (一括質問一括答弁方式)	1. 道路行政について	(1) 市内に走っている幹線道路へのアクセスについて	<p>①市内には、高速道路を始め、国道、県道と道路が市内を通過しているが、それらの道路へのアクセスをどう考えているのか市長の認識を伺います。</p> <p>②今年是小雪であるが、大雪の場合などは流通に影響もあったと伺っているが、市長の認識を伺います。</p> <p>③市内にある工業団地などを含め、市の道路はどうあるべきか(観光道路も含む)伺います。</p>
		2. 子育て支援課の組織改正について	(1) 新たな相談窓口について	<p>新たな相談窓口については、さらに子育て支援課に子どもサポート係をつくり、新たな子育て相談窓口を開設して、これまで健康づくり課が行っていた妊娠、出産時の悩み相談や、社会福祉課が行っていた療育相談を、子育て支援課が一手に引き受けるということだが、そこで、</p> <p>①発達障がいを含む療育に関する相談だけでなく、産まれたばかりの乳幼児の子育てから園児の保育や、教育全般について相談に乗るといふことでよいのか。また、虐待にかかわる内容の相談についても対応することでよいのか伺います。</p> <p>②園児の保育や教育、就学相談だけでもかなりの相談があると思うが、今後予想されるさまざまな相談に対応できるスタッフが整備されることになるのか伺います。</p> <p>③市民に子育て相談窓口が一本化することをどのように周知するのか伺います。</p>
			(2) 園の療育について	①発達障がい疑われる園児の子育ては、園も保護者も苦慮する場面があると聞いているが、これまで子育て支援課は、園や保護者にどのような支援をしてきたのか。また、組織改正によってどのように変わるのか伺います。
		3. 農政について	(1) 新年度の予算について	①新年度の農業に対する目玉予算はあるのか伺います。
			(2) 後継者について	<p>①農業の後継者の減少について、市の認識を伺います。</p> <p>②農家の後継者対策は、今後どうあるべきか市の考えを伺います。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)		
10	タナカ・キン (一問一答方式)	1. 朝日町の引揚者住宅について	(1) 朝日町の引揚者住宅について	①旧燕市の朝日町の土手に戦後引揚者住宅がある。「朝日大橋」を挟むように左右に位置しているこれらの住宅が建てられた当時のいきさつについて伺う。 ②現在の住宅の戸数と、そのうち空き家になっている戸数について伺う。 ③現地を確認すると、空き家の中には景観を損なっている状態や、倒壊等の危険となる状態も見られるが、市は調査、確認を行っているか伺う。 ④裏手に回ると土留めがされている場所や、されていない場所がある。理由について伺う。 ⑤これらの空き家は、特定空き家として認められないのか伺う。 ⑥この場所は無番地と聞いている。固定資産税について伺う。		
			(1) 小池中学校体育館の照明等の交換について	①12月定例会、小池中学校体育館の照明等の交換が55万6千円で予算計上されていた。交換する照明灯が2個ということだったが、55万6千円もかかる理由について伺う。 ②小池中学校体育館の照明灯の数について。 ③今後もこの方法で交換しなくてはいけないのか伺う。		
		2. 学校体育館の照明等のLED化について	(2) 市内の小中学校体育館のLED化状況について	①小池中学校以外のLED化状況について伺う。 ②LED化とそうでない照明では明るさがどれくらい違うのか伺う。 ③学校体育館は大規模改修と併せてLED化されてきたが、それ以外のLED化の予定について伺う。		
			3. 配水管工事入札をめぐる不正事件について	(1) 配水管工事入札をめぐる不正事件について	①市職員が業者に工事の価格情報を漏らしたとの報道である。新聞報道によれば、この業者は水道局が19年度に燕市内で発注した配水管布設関連工事43件中、10件(逮捕容疑の工事2件を含む)を落札した。 比較的大きな工事の落札が多く、落札額ベースで全体の4割以上を占めているとのことである。ここ数年、この業者が落札した工事はそれぞれ何件中、何件か。 ②落札額ベースでそれぞれ全体の何割だったか伺う。 ③この職員は工事の担当外で、価格情報を知り得る立場ではないとのことである。工事の設計価格の算出方法は、10年間ぐらいで見ると変わっていないのか伺う。	
		11	埴 豊 (一問一答方式)	1. 燕市の財政状況について	(1) 令和2年度予算における歳入について	①市税として2.6億円の減少、国庫支出金2.9億円の減少、その一方、寄付金12.5億円の増、繰入金2.8億円の増をどのように捉えているのか。 ②地方消費税交付金4.4億円、地方事業税交付金1.1億円、環境性能割交付金4.5千万円の増を加えても、全体として総額4.9億円の歳入減をどのように評価するのか。
					(2) 公債費について	①交付税算定100%の臨時財政対策債12.4億円、交付税算定70%の合併特例債18億円、公債費償還見込額総額43億円のうち70%を占めることについて。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
11	塙 豊 (一問一答方式)	1. 燕市の財政状況について	(3) 地方交付税と一般財源確保について	①地方交付税69億円と臨時財政対策を合わせた総額80億円のうち、その10%以上が下水道事業に繰り入れられていることをどのように捉えるのか。 また、公債費の償還や、人件費の負担増、幼保無償化への対応などますます厳しさを増す一般財源確保への対応について。
		2. 産業問題について	(1) 消費税の増加、米中貿易摩擦、今回のコロナウイルス問題の下での対応	①燕市への影響と今後の対応について。 ②中国からの輸入商財への影響について。
			(2) 事業継承問題について	①M&Aによる取り組みについて。 ②失われていく技術継承について。 ③人材確保について。
		3. 教育問題について	(1) 小学校における新指導要領の完全実施について	①準備は充分できているのか。 ②特に対話を重視した教育や、深い学びの視点に対する教職員のスキルは充分かについて。 ③土曜日授業の可能性について、特に確かな学力維持に向けて。
12	小林 由明 (一問一答方式)	1. 人口減少と燕市の存続について	(1) 市内人口減少対策と住宅取得支援について	①出産による人口増が見込めない中で、全国的に移住定住の取り組みが強力に推進され続けているが、今後は自治体間において人口の取り合いともいえる状況が激化していくことが想定されている。 燕市存続のために、直接的に人口増につながり、出産可能性の高い若年世代の移住定住には特に注力すべきであり、期限を定め、他自治体に先駆けて目玉となるような思い切った施策の展開も必要ではないかと考えているが、今後の市内人口減少対策における移住定住促進についての考えを伺いたい。 ②移住家族支援事業等における、多子世帯となる要件を18歳以下3人以上とあらためるとともに、子どものいる世帯の移住家族支援補助総額を変更し、妊娠中を含み子ども2人で60万円、人口置換水準を超える3人で100万円といったように、多子世帯には段階加算で上限100万円補助と設定し、市内建築業者などがかわることを条件に、移住家族支援補助総額で180万円という取り組みとしても、これまでの補助金交付実績からみて大きな財政負担となるとは言えず、子育て世代へ与えるインパクトも大きい。 燕市を本質的に成長させるための正攻法であるとは言えないと思うが、切迫する若年世代の減少に向き合い、市内住環境やコミュニティの再構築、そして燕市存続の重要事業とも言える本事業がさらに効果をあげられるよう、多子世帯100万円補助を取り入れていただきたいがいかがか。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
12	小林由明 (一問一答方式)	1. 人口減少と燕市の存続について	(1) 市内人口減少対策と住宅取得支援について	<p>③ 出産意欲を持ち、住宅取得を考える市内在住の若年世帯に対し、住宅取得や数世代同居のための住宅改修の際の支援として、妊娠中を含む子どもの数に応じた支援を行い、定住と出産を促す取り組みにできないか。</p> <p>④ 移住家族支援事業、まちなか居住支援事業ともに、補助加算の項目に婚姻3年以内新婚世帯が盛り込まれている。「子育て世代の呼び込みを目的としている」とあるが、新婚世帯3年と区切るのではなく、子育て世代の年齢層を補助対象とすべきではないのか。</p>
			(2) 移住定住事業におけるコンパクトシティの推進と未利用不動産の活用について	<p>① コンパクトシティ推進と、未利用不動産活用についての市の姿勢を改めて伺いたい。</p> <p>② 移住家族支援事業、まちなか居住支援事業ともに、居住誘導区域内における住宅取得については加算等の措置が講じられることとなっている。また、令和2年度予算では移住家族支援事業において中古住宅購入加算が増額され、これまで以上にその活用推進に注力されていることが感じられるとともに、コンパクトシティ推進の姿勢が見てとれる。</p> <p>一方で、加算対象となる中古住宅には「昭和56年6月1日以降に建築されたものであること」との要件が付されているが、例えば、燕市空き家空き地活用バンク登録物件を見ると、居住誘導区域内において建築時期が補助要件に該当する物件が非常に少なく、地域の肌感としても、中古住宅といえるものについては当該時期以前に建築された住宅の方が多く感じており、効果的な制度になっているか疑問がある。</p> <p>移住定住支援事業及びまちなか居住支援事業は、コンパクトシティと未利用不動産活用の推進についても効果を期待すべきと考えているが、市の考えを伺いたい。</p>
		2. 水道の塔について	(1) 水道の塔のこれからについて	<p>① 水道の塔については、その維持存続についても解体撤去についてもそれぞれに賛否はあるが、明らかな危険性をはらみつつ維持費が発生し続けるのであれば解体撤去すべきという声や、吉田分水そして比較的若い世代などでは、税を充て存続させ続けることに疑問を持つ方が多いという肌感がある。</p> <p>しかしながらこれまで、水道の塔が持つ可能性の議論については十分になされてきたとはいえないと感じている。外壁落下等の危険性をはらむ水道の塔を、今後維持存続させるのかしないのかの決断を下す前に、水道の塔が持つその可能性について今一度考えてみるべきであり、文化財としての価値にとどまらず、維持管理費の捻出や新たな収入源となり得るのかなどの経済的観点も含め、どのような活用が燕市にとって、また、社会にとって利益に結びつくのか、広くアイデアを募る「アイデアソン」などの開催も検討すべきであると考えているがいかがか。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
13	岡山 秀義 (一問一答方式)	1. 放課後児童クラブの現状と課題について	(1) 放課後児童クラブ児童数と施設について	<p>①放課後児童クラブについては「放課後児童健全育成事業」として、共働き家庭などの小学生に勉強、友達との遊びの場、生活の場として提供し、安全で健全な育成を図ることを目的としています。</p> <p>本市においては、現在公立16、私立2の放課後児童クラブがあるが、各児童クラブ定員数に対して現在の登録児童数について伺います。</p> <p>②放課後児童クラブ運営指針には、「子ども集団の規模(支援の単位)は、子どもが相互に関係性を構築したり、1つの集団としてまとまりをもって共に生活したり、放課後児童支援員等が個々の子どもと信頼関係を築いたりできる規模として、おおむね40人以下とする」、「専用区画の面積は子ども1人につきおおむね1.65㎡以上を確保することが求められる」とあるが、本市での現状について伺います。</p> <p>③児童福祉法の改正により平成27年から対象を「おおむね小学4年生」から「小学6年生」まで拡大し、放課後児童クラブの必要性がより高まりました。今後も児童増加が予想されるが対応について伺います。</p>
			(2) 放課後児童支援員について	<p>①放課後児童クラブにおいて、支援員は児童の健康面・精神面・遊びへの活動意欲や態度の形成を図りながら子どもが安心して放課後を過ごせるようサポートする大切な役割を持っています。本市各児童クラブにおいて放課後児童支援員はしっかりと確保できているのか伺います。</p> <p>②共働き家庭における「小1の壁」・「子どもと支援員の関係」にしっかりと対応するためには、支援員の育成は必要不可欠であると考えます。支援員講習会など今までと今後の取り組みについて伺います。</p>
			(3) 安全対策・緊急時の対応について	<p>①放課後児童クラブ施設において、大人が目線では気付くことのできない「危険箇所」が多くあると思います。子どもたちが安心して過ごせるよう、子ども目線で事前に「危険箇所」を把握し事故を阻止するために、どのような対策がなされてきたのか伺います。</p> <p>また、今年度に起きたケガなどの事例と対応について伺います。</p> <p>②緊急災害発生時に速やかに安全に回避するための避難訓練、ウイルス等感染症流行時における対応について伺います。</p>
			(4) 障がいのある子どもへの対応について	<p>①インクルージョン(組織全体で包み込むように迎え入れる)の考え方に立ち、障がいのある子どもに対して、利用する機会が確保されるように適切な配慮及び環境整備を行い、子どもたちとの生活を通して共に成長できるよう育成支援が必要と考えるが、本市での対応を伺います。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
13	岡山秀義 (一問一答方式)	1. 放課後児童クラブの現状と課題について	(5) なかまの会の児童クラブ化推進事業について	① 現在なかまの会5カ所には登録児童数477人(平成30年度)であるが、今後どのように児童クラブ化を進めていくのか伺います。 ② 切れ目ない支援、子育て相談窓口の一元化、なかまの会の児童クラブ化等により職員への負担が大きくなると思うが、子育て支援課職員増員はないのか伺います。
		2. 学校給食のハラール対応について	(1) 学校給食のハラール対応について	① 多文化共生を目指すうえで、今後、外国人就労の増加を考え、子どもたちのための学校給食ハラール(宗教的に除外される食品)対応マニュアルを作成すべきと考えるが、どのようにお考えか伺います。
14	宮路敏裕 (一問一答方式)	1. 高齢者の交通手段について	(1) 本市が取り組む公共交通について	① 燕・弥彦地域公共交通網形成計画では、5年単位で課題を捉え、改善を図っていくとあるが、その中で循環バス及びデマンド交通について、現時点の改善方針議論の到達点について認識を伺う。 ② 上の計画書に掲載されている「公共交通に関する意識調査」の中で、65歳以上の人できららん号の「利用方法がわからない」「予約がめんどろ」という回答が目立つが、この点についてどう捉えているか認識を伺う。 ③ 同じく、計画書にある利用者対象調査の中で、今後の利用意向について、スワロー号では87%が「今後も利用する」と回答している一方で、きららん号は45%である。利用者全体を反映したものではないが、どう受け止めているか認識を伺う。
		2. 社会教育施設使用料見直しについて	(1) 各団体への影響について	① 文化協会に所属するある団体の場合、使用料見直しによって、一月あたり11,440円の負担になることが判明している。急激な負担にならないよう配慮して、8割減免をしてもこのようになるというケースである。見直しにあたっては慎重に議論してきたという説明は受け止めているが、こういう負担になる団体を想定していたか、このような負担額についてどう受け止めているか認識を伺う。 ② 負担増を理由に団体が解散してしまうことがあつては、誰のための社会教育施設か問われることになる。経済的に余裕のある人しか利用できない施設になつては本末転倒であり、団体の動向について注視していくことが必要でないか認識を伺う。
15	長井由喜雄 (一問一答方式)	1. 会計年度任用職員制度について	(1) 県内自治体の制度の状況について	① 県内自治体のフルタイムとパートタイムの状況について伺う。 ② 保育士職において経験年数を加味した俸給表としているところはどこか伺う。また、時給換算で燕市より高いところはどこか伺う。 ③ 事務補佐の時間を減らしている自治体はどこか伺う。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発 言 す る 員	質 問 項 目 (大項目)	質 問 要 旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小項目)
15	長井 由喜雄 (一問一答 方式)	1. 会計年度 任用職員制 度について	(2) 燕市の制度と 問題点について	<p>①燕市の制度の職種ごとの俸給・時給の定義について伺う。</p> <p>②現行と新年度移行時で職種の加減はあるか。また、人数の加減はあるか。その理由についても伺う。</p> <p>③生活給と言われる日額と月額において、現行よりも増となるものおよび減となるものはどの職種か伺う。</p> <p>④事務補佐は現在の7.5時間から7時間とするということだが、現在の人数と移行時の人数を伺う。また、移行時の一日あたりの時間減は合計で何時間となるか伺う。また、課の中で時間減となる数値が高いのはどこか、その影響についても伺う。</p> <p>⑤保育士職においては、現在の3段階から一律の俸給表に当てはめるのはどうしてか。その根拠を伺う。</p> <p>⑥保育士と児童クラブ、児童館職員における時給差の根拠について伺う。</p> <p>⑦指定管理委託としている施設で働く人達の人件費は、制度を考慮して加算するのか伺う。</p> <p>⑧年間の労働日数は何日となるか。交通費計算の矛盾について伺う。</p>
		2. 子ども たちへの 支援につ いて	(1) 子どもたち にも一律に負 担がかかる国 保税の「均等 割」について	①国保税の「均等割」は他の保険にはない。子育て支援の観点から国民健康保険加入世帯の子どもにかかる均等割については市がこれを負担していくことを求めるが、考えを伺う。
			(2) 中学校進学時 の自転車通学 用ヘルメット 補助の復活に ついて	①今年度の予算編成においてヘルメット購入費補助、一人1,000円が削られた。新年度予算においても「就学援助」として対象者を限定するとしている。わずか50万円を削るのではなく、子どもたちの安全登下校の補助金として復活させることを求めるが考えを伺う。